

## 『耕人塾』1回生からの嬉しい報告

先日、『耕人塾』1回生の三浦健(たける)君から突然の電話がありました。「木村先生ですか? 『耕人塾』1回生の三浦健と申します。好文館高校出身で、高橋倫平君と同期です。現在岩手大学教育学部の4年生です。『耕人塾』では木村先生はじめ、先生方に大変お世話になりました。お陰様でこの度の岩手県小学校教員採用試験に合格し、念願の小学校の先生になることができました。子どものころからの夢であった小学校の先生になることができたのも、『耕人塾』で学んだことや仲間のお陰だと思っています。本当にありがとうございました。」丁寧で心のこもった電話にとっても嬉しい気持ちになりました。その時、健君に2つのことをお話ししました。1つは、子どもに好かれ、学校を支える先生になってほしいこと。2つ目は、『耕人塾』塾生へのメッセージを書いてほしいことです。1週間後に健君のメッセージが届きましたので紹介します。

## 「耕人塾での学びを振り返って」

耕人塾では様々な分野の先生方から講話を聞いたり、奉仕活動や武道など様々な実践活動を体験したりして自分自身の「人間力」を磨き上げるための学びを積み重ねてきました。毎回の活動でたくさんのことを学ぶことができたのですが、私が耕人塾の学びの中で最も印象に残っているのは茶道の実践活動です。茶道体験を通して、おもてなしの心とは何かについて学び、そこで初めて「一期一会」という言葉が茶道に由来することを知りました。「茶会に臨む際には、その機会は一生に一度のものとして心得、主客共に互いの誠意を尽くせ」ということから一つ一つの出会いは一生に一度きりという意味が込められているそうです。それから私は人との出会いや経験の一つ一つに何か意味があるのではないかと考え、人との出会いや経験を大切にしています。今では「一期一会」という言葉が私の座右の銘になっています。

私は来年の春から岩手県で小学校の先生になります。小学生の時から学校の先生になることが私の夢でした。今こうして夢に近づくことができているのは耕人塾で出会った先生方や耕人塾での一つ一つの学びが自分を成長させてくれたからだ実感しています。これから私は教師という立場になりますが、今後も耕人塾で培った人間力を更に磨き上げていき、子どもたちと共に成長していくことができる教師を目指して、日々励んでいきます。

岩手大学教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース 三浦 健

健君は小学校教員採用試験に合格したことを「夢に近づくことができているのは耕人塾で出会った先生方や学びのお陰」と述べていることを嬉しく思いました。そして、合格がゴールではなく、「今後も耕人塾で培った人間力を更に磨き上げていき、子どもたちとともに成長していくことができる教師を目指して、日々励んでいきます」と結んでいることに感動しました。「学校を夢と感動のある楽しい場にしてほしい。そのためには、教師は出会いやその時々学びから人間力を磨き、成長し続けることが大切だ」という私の考えを先取りしていたからです。

## 新たなる挑戦(石巻日日新聞「各駅停車」)から

挑戦するということは失敗や挫折をして悔しい思いや恥をかくこともあります。新たな自分を発見する楽しさもまたあります。石巻日日新聞「各駅停車」(R元115)に私の記事が載っていましたので、恥ずかしいのですが概略を紹介します。「あなたの夢は何ですか?この質問に皆さんはどうこたえるだろうか。『木彫の奥深さを突き詰めたい』とは木村民男先生が語ってくれた今の夢。そう語る時の表情は72歳という年齢を感じさせないほど若々しかった。そして民男先生が毎日付け始めた日記があるといい、そのタイトルを聞くとこう返ってきた。『新たなる挑戦』ですよ。」年内中に達成させたい幾つかのことに挑戦中です。この続きは閉塾式の時に話します。